5 第５次吉岡町総合計画の評価

第５次吉岡町総合計画について、後期基本計画の進捗を自己評価し、以下のようにまとめています。

（1）まちづくりの柱（施策の大綱）ごとの評価結果

調査にあたっては、後期基本計画の体系図における６つの「まちづくりの柱」、41 の「施策項目」及び 100 の「主要施策」に基づく「施策（取組）」に対し、どの程度進捗が図れたのか、といった視点により A から E までの５段階で評価を行いました。

評価 / まちづくりの柱	A	B	C	D	E	合計
1 【支え合う健康と福祉のまち】	48	14		1	1	64
2 【心豊かな教育と文化のまち】	17	2		1		20
3 【活力ある産業と雇用のまち】	6	8	1			15
4 【魅力的な自然と環境のまち】	21	6	1			28
5 【住みよい安全で便利なまち】	33	14	1	2		50
6 【町民と行政が協働するまち】	42	5				47
個数	167	49	3	4	1	224

進捗度（%）　100 ― 50 ― 0

※新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた評価を令和３年１月に実施（令和３年度終了時点の見込み）
※「施策（取組）」の担当部署による評価

D・E評価概要　5件

評価	施策項目	主要施策	施策（取組）
D	1-3 地域福祉 2-1 幼児教育 5-6 市街地 5-6 市街地	(3) 地域のユニバーサルデザイン化 (2) 保育所・幼稚園教育の充実 (1) 活気のあるタウンセンターづくり (2) 魅力的な市街地の整備	①公共施設のユニバーサルデザイン化（道路･公園への対応） ③地域子育ての支援（園舎・園庭の開放） ①タウンセンターづくり（役場周辺地域への公共施設の集積） ①美しい町並み景観の形成（屋外広告規制条例･景観条例の制定）
E	1-4 次世代育成	(1) 若者の自立と交流の支援	④若者の交流支援（出会いの場の提供活動への支援）

（2）まちづくりの柱ごとの課題

課題 1
支え合う健康と福祉のまち

本町では子育て家庭の移住などによる人口増加が特徴として挙げられますが、核家族化や単身高齢者などの増加もみられます。子どもの医療費負担増や子育て家庭の環境変化、健康維持のための健診や 8050 問題、障害者（児）支援など、町が担うべき健康福祉の範囲は広がっています。専門職やボランティアの不足、関係機関との連携強化などが共通の課題となっています。

課題 4
魅力的な自然と環境のまち

近年の商業施設等の開発に伴い農地が減少する一方で、交通量は増加しています。下水道の普及や農畜産業の振興、公共交通の利用促進等を図り、自然環境を保全していく必要があります。自治会等の清掃ボランティア活動により道路や河川の環境は守られてきていますが、参加者の減少もみられます。

課題 2
心豊かな教育と文化のまち

学校施設や設備、給食センターの老朽化への対応とともに、児童生徒数の増加から学校支援員やボランティアなどの確保が必要です。生涯学習では活動団体の硬直化などがみられます。スポーツ団体は活発に活動していますが、町としてのスポーツ振興の方向性を打ち出していく必要があります。

課題 5
住みよい安全で便利なまち

本町は大規模な自然災害の被害を受けた経験が近年なく、住民の防災意識も高いものとは言えません。今後も、危機意識を共有し、消防団を含めた地域の防災力の強化を図ることが必要です。狭い道路の拡幅などにより、安全な生活基盤を維持していく必要があるとともに、防犯カメラの設置を含め各種施策の取組から犯罪や事故のない平和な暮らしができる環境を整備していく必要があります。

課題 3
活力ある産業と雇用のまち

優良農地が減少し、担い手不足もあり、農畜産業の従事者が減少しています。また、本町には大きな観光資源は少ないですが、関越自動車道の駒寄スマート IC の大型車供用開始により、大型商業施設等の進出が見込まれ、大幅な流入人口の増加が見込まれます。農地の保全や中小企業の継続的発展などと並行して、インターチェンジ周辺の大きな変化に対応していく必要があります。

課題 6
町民と行政が協働するまち

デジタル社会の進展や情報媒体の急激な増加など、町からの情報を的確に住民に届けていくことが必要です。高い専門性を有した人材による、きめ細かな行政サービスの提供が求められます。公共施設の維持や人口増に伴う財政負担増などへの対応が迫られています。